

きむ みよんす
金 明秀 教授

専門分野・キーワード

- エスニシティ・ナショナリズム
- 社会意識論
- 社会階層論

／ 教育・研究内容

大学院時代、ぼくの研究の出発点となったリサーチエスチョンは、「在日コリアンの民族性とはなんだろう」というものでした。多くの在日コリアンが成長過程で直面する問いなのですが、ぼくが研究を志した当時はまだ学術的には研究の対象とされていませんでした。在日のエスニック・メディアではさかんに論じられていましたが、論者によって主張することがまったく違うし、にもかかわらず誰も主張の根拠を調査によって確かめようとせず、ただいたずらに激しく議論を闘わせるだけという状況だったのです。この問題に誰も学術的に取り組もうとしないのなら自分がやってみよう、議論の係留点となるようなエビデンスを提供しよう、そう考えて研究者の道を志しました。研究のアプローチとして量的手法を用いてきたのも、すこしでも多くの反証可能性を確保したいと考えてのことです。

もう一つ、大学院生のころに抱いたリサーチエスチョンがあります。「在日コリアンは民族的な差別や不平等をどうやって克服しているのだろうか」というものです。マイノリティが置かれた社会経済的な不平等は「民族的階層化」と呼ばれる研究テーマで、世界的にはたくさんの方の先行研究がありました。というより、社会階層論の中心的なテーマといっても過言ではないほどなのですが、なぜか日本には研究例が一つも存在しなかったのです。こちらも、だったら自分でやればいいのかということで、社会階層の民族間比較についても研究を始めました。

「三つ子の魂」というわけでもありませんが、それ以後、現在までエスニシティ、ナショナリズム、差別意識などの社会意識について統計解析を駆使しながら正体を明らかにする計量社会意識論と、社会的不平等の実態とその克服プロセスを量的に特定する社会階層論に取り組んでいます。

大学院のゼミは、主として計量社会意識論の技法と問題設定を学びながら、各学生の関心に合わせて研究発表をしたり、データ解析の妥当性について議論したりします。同じデータでも、切り口や分析モデルによってまったく異なる様相をあらわにしますので、ゼミでは実践的に討議をしながら、可能な限りバイアスが少ないようにデータを要約するためのスキルを習得します。

／ 代表的な著書・論文等

福岡安則・金明秀, 1997, 『在日韓国人青年の生活と意識』 東京大学出版会

金明秀, 2015, 「日本における排外主義の規定要因—社会意識論のフレームを用いて—」『フォーラム現代社会学』 14 巻

金明秀, 2016, 「ヘイトスピーチ問題の構成過程— 3.11 以降の運動が可視化させたもの」『支援』 6号、生活書院

金明秀, 2018, (単著) 『レイシャルハラスメント Q&A』 解放出版社

／ 研究紹介のホームページなど追加情報

ブログ「Whoso is not expressly included」にエッセイ記事群(<http://han.org/blog/>)

ツイッター https://twitter.com/han_org

専門分野・キーワード

- エスニシティ・ナショナリズム
- 社会意識論
- 社会階層論

Areas of Expertise and Keywords

Ethnicity and nationalism

Social consciousness theory

Social stratification theory

大学院時代、ぼくの研究の出発点となったリサーチクエスションは、「在日コリアンの民族性とはなんだろう」というものでした。多くの在日コリアンが成長過程で直面する問いなのですが、ぼくが研究を志した当時はまだ学術的には研究の対象とされていませんでした。在日のエスニック・メディアではさかんに論じられていましたが、論者によって主張することがまったく違うし、にもかかわらず誰も主張の根拠を調査によって確かめようとせずに、ただいたずらに激しく議論を闘わせるだけという状況だったのですね。この問題に誰も学術的に取り組もうとしないのなら自分がやってみよう、議論の係留点となるようなエビデンスを提供しよう、そう考えて研究者の道を志しました。研究のアプローチとして量的手法を用いてきたのも、すこしでも多くの反証可能性を確保したいと考えてのことです。

When I was in graduate school, the research question that became the starting point of my research was "What is the ethnicity of Korean residents in Japan? This is a question that many zainichi Koreans face as they grow up, but it was not yet a subject of academic research when I decided to pursue it. The ethnic media of zainichi Koreans were discussing this issue a lot, but the arguments were completely different from one person to the next, and despite this, no one tried to confirm the basis of their arguments through research. I thought that if no one was going to tackle this problem academically, then I would do it myself, and provide evidence that would serve as a point of reference for the debate, and so I decided to become a researcher. I have been using quantitative methods as my research approach because I want to secure as much refutability as possible.

もう一つ、大学院生のころに抱いたリサーチクエスションがあります。「在日コリアンは民族的な差別や不平等をどうやって克服しているのだろうか」というものです。マイノリティが置かれた社会経済的な不平等は「民族的階層化」と呼ばれる研究テーマで、世界的にはたくさんの先行研究がありました。というより、社会階層論の中心的なテーマといっても過言ではないほどなのですが、なぜか日本には研究例が一つも存在しなかったのですね。こちらも、だったら自分でやればいいやということで、社会階層の民族間比較についても研究を始めました。

Another research question I had as a graduate student was, "How do Korean residents in Japan overcome ethnic discrimination and inequality?" The socioeconomic inequality of minorities is a research topic called "ethnic stratification" and there has been a lot of previous research on it worldwide. It is not an exaggeration to say that it is a central theme in the theory of social stratification, but for some reason,

there was not a single example of such research in Japan. I decided that I should do it myself, so I started researching the comparison of social stratification among ethnic groups.

「三つ子の魂」というわけでもありませんが、それ以後、現在までエスニシティ、ナショナリズム、差別意識などの社会意識について統計解析を駆使しながら正体を明らかにする計量社会意識論と、社会的不平等の実態とその克服プロセスを量的に特定する社会階層論に取り組んでいます。

Since then, I have been working on the theory of quantitative social consciousness, which clarifies the true nature of social consciousness, such as ethnicity, nationalism, and discrimination, using statistical analysis, and the theory of social stratification, which quantitatively identifies the reality of social inequality and the process of overcoming it.

大学院のゼミは、主として計量社会意識論の技法と問題設定を学びながら、各学生の関心に合わせて研究発表をしたり、データ解析の妥当性について議論したりします。同じデータでも、切り口や分析モデルによってまったく異なる様相をあらわにしますので、ゼミでは実践的に討議をしながら、可能なかぎりバイアスが少ないようにデータを要約するためのスキルを習得します。

In the graduate seminars, students mainly learn the techniques and problem formulation of Quantitative Social Consciousness Theory, while presenting their research and discussing the validity of data analysis according to their interests. The same data can reveal completely different aspects depending on the approach and analysis model. In the seminar, students learn the skills to summarize data with as little bias as possible through practical discussions.

代表的な著書・論文等

福岡安則・金明秀, 1997, 『在日韓国人青年の生活と意識』 東京大学出版会

金明秀, 2015, 「日本における排外主義の規定要因—社会意識論のフレームを用いて—」『フォーラム現代社会学』14 卷

金明秀, 2016, 「ヘイトスピーチ問題の構成過程—3.11 以降の運動が可視化させたもの」『支援』6号、生活書院

金明秀, 2018, (単著)『レイシャルハラスメント Q&A』解放出版社

Main Publications

Fukuoka, Yasunori and Kim, Myungsoo, 1997, Life and Consciousness of Zainichi Korean Youth, University of Tokyo Press

KIM, Ming-Soo, 2015, "Determinants of Exclusionism in Japan: Using the Frame of Social Consciousness Theory," Forum for Contemporary Sociology, Vol.14.

Kim, Myeong-Soo, 2016, "Hate Speech Problem's Constitutive Process: What the Movement After 3.11 Made Visible," Support, No.6, Seikatsu Shoin

Kim, Myung Soo, 2018,, "Racial Harassment Q&A," Kaiho Shuppansha

研究紹介のホームページなど追加情報

ブログ「Whoso is not expressly included」にエッセイ記事群 <http://han.org/blog/>

ツイッター https://twitter.com/han_org

Additional information, including a website introducing the research

A group of essay articles on the blog "Whoso is not expressly included": <http://han.org/blog/>

Twitter https://twitter.com/han_org